

今週（5月30日から6月3日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、積み期後半に入った。引き続きオファーサイドのニーズは旺盛な一方で、地銀業態を中心としたビッドサイドのニーズは一服し、日を追うごとに調達レートを引き下げていく展開となった。無担保コールO/N物加重平均レートは、週初は▲0.02台前半であったが、週後半には▲0.03台半ばまで徐々に低下した。

ターム物はショートターム物を中心に、週前半は▲0.015～▲0.03%での出会いが見られたが、先行き不透明感からビッドサイドにレートを引き下げる動きが散見され、週後半は目立った出会いは見られなかった。

日銀当座預金残高は、週初540兆円台後半であったが、30日の短国3M物の発行、2日の法人税・年金保険料揚げを受け530兆円台後半まで減少となった。

●レポ市場

今週のGC O/N物は、概ね▲0.090～▲0.080%程度の水準で推移した。

SC個別銘柄では、5年140～151、10年352～366、20年170～180、30年65～74、40年10～14などカレント近辺の銘柄にビッドの出入りが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、31日に実施された短国買入オペが、前回と同額の5,000億円でオファーされ、やや弱めの結果となったことを受け、6Mと1Y物は軟調な展開となった。一方で、3M物は先週の入札が流れる結果となったものの、その後は徐々に買いが入る展開となった。

3日に実施された3M物の入札はやや弱めの結果となったが、結果発表後のセカンダリーマーケットでは底堅く推移した。

●CP市場

今週のCP発行市場は、月初週の発行にあたり、償還総額2,700億円弱に対して、発行総額4,000億円程度の発行超となったが、償還が少なかったこともあり、週を通して案件が少なく落ち着いたマーケットであった。大型発行は、石油業態から見られた程度で、その他は小口の案件が中心。市場残高は、5月末の発行が膨らんだこともあり、26兆円弱から26兆円台半ばの高水準で推移しており、先週から順調に拡大している。

発行レートに関しては、引き続き0%付近の決着に密集する展開になっているが、残高の多い銘柄やロングタームの案件では買いが入りにくく、目線を切り上げる動きも散見された。

●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日 物・T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
5/30 (月)	27,369.43	0.230	127.02	△ 0.022	△ 0.092	5,477,100
5/31 (火)	27,279.80	0.235	128.20	△ 0.026	△ 0.092	5,487,900
6/1 (水)	27,457.89	0.230	128.92	△ 0.029	△ 0.089	5,435,500
6/2 (木)	27,413.88	0.240	130.04	△ 0.034	△ 0.087	5,395,100
6/3 (金)	27,761.57	0.230	129.82	△ 0.039	△ 0.085	5,367,400

来週（6月6日から6月10日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
6/6 (月)					
6/7 (火)	5月のマネタリーベースと日本銀行の取引(日銀 8:50) 4月の全世帯家計調査(総務省 8:30) 4月の毎月勤労統計調査速報(厚生労働省 8:30) 4月の景気動向指数速報(内閣府 14:00)	30Y 9,000億円 6/8発行	交付税借入 13,000億円 6/17借入		4月の米貿易収支 4月の米消費者信用残高
6/8 (水)	1-3月期のGDP2次速報(内閣府 8:50) 4月の国際収支(財務省所管・日銀作成 8:50) 5月の景気ウォッチャー調査				4月の米卸売売上高 1-3月期のユーロ圏GDP確報値
6/9 (木)	5月のマネーストック(日銀 8:50) 4月の特定サービス産業動態統計速報(経済産業省 13:30)	TB6M 28,000億円 6/10発行	流動性供給 5,000億円 6/10発行	エネルギー 対策借入 8,000億円 6/20借入	ECB定例理事会(金融政策発表)
6/10 (金)	5月の企業物価指数(日銀 8:50)	TB3M 56,000億円 6/13発行			5月の米財政収支 5月の米消費者物価指数 6月のミシガン大消費者信頼感指数速報

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
6/6 (月)	800	▲ 1,300	▲ 500	国債買入 国債補充 CP買入 社債買入		11,500	12,500	12,000	TB3M発行▲59000償還55900
6/7 (火)	1,000	4,500	5,500		1,200		0	5,500	
6/8 (水)	1,000	▲ 10,500	▲ 9,500	全店共通	▲ 100	▲ 5,300	▲ 5,300	▲ 14,800	30Y発行▲9000
6/9 (木)	0	▲ 3,000	▲ 3,000		▲ 100		0	▲ 3,000	
6/10 (金)	▲ 1,000	7,000	6,000				0	6,000	流動性供給▲5000 TB6M発行▲28000償還34500 交付税借入▲13000期日11000
週間合計	1,800	▲ 3,300	▲ 1,500	—	▲ 4,300	11,500	7,200	5,700	

6/6は日銀予想、6/7以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、調達サイドのニーズが限定的ななか、引き続きレート水準は低下基調が見込まれる。レポ市場は、参加者のスタンスに大きな変化がなければ、GC O/N物のレートは▲0.090～▲0.075%程度の水準で推移することが見込まれる。9日に発表される、6月積み期間に適用される基準比率は、各種オペの金額次第ではあるが、20.0～21.0%程度を予想する。

短国市場は、9日に6M物、10日に3M物の入札実施が予定されている。いずれも発行予定額が減額となる事からレート水準が注視される。7日に実施が予想される短国買入オペのオファー額は、5,000～10,000億円程度が予想される。

CP市場は、6月末を控えての事業法人の発行動向が注目されるほか、9日にCP等買入オペが4,000億円オファー予定であり、結果が注視される。

主要なイベントは、国内では8日に1-3月期GDP2次速報(改定値)、海外では、8日にユーロ圏1-3月期GDP確報値、9日にECB定例理事会、10日に5月の米消費者物価指数などの発表が予定されている。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等を考慮頂く必要があります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入